

教育理念	「学力がつく・やりたいことを極める」新しい高校	当年度の課題
目標(テーマ)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業 学ぶ楽しさを体験する科学的授業で、生涯を学び人に 目覚めよ！自分力、やりたいことにチャレンジ 徹底的な個人指導と親身なサポート体制 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に基づく、質の高い教育を展開できるよう、レポート及びスクーリングの内容の更なる充実と教職員の指導体制の強化に努める。 いじめの防止等に関する措置を実効的に行うためにいじめ対策委員会を運営する。 コンプライアンスの取り組みを強化し、より質の高い学校運営をする。

※評価基準…A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:出来ていない

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善方針
学校運営	教育課程	教育目標	多様な生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた適切な支援・指導を目指せるものになっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程は左記「具体的な評価項目」の実現のために、標準的な履修科目以外の科目も多様に選択できるように編成されている。 履修相談にあたっては、生徒の希望等をよく聞き、それに応じた履修となるよう努めている。 「報告課題」(「レポート」以下同)、「面接指導」(「スクーリング」以下同)、その他のインターネットなどの多様なメディアを利用して行う学習(「メディア学習」以下同)、「試験」の編成・実施にあたっては、上記と同様に、より柔軟で効果的な対応ができるよう、絶えず努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> レポート・スクーリング・メディア学習・試験等の具体的な学習の展開においては、アンケートや日々の生徒とのコミュニケーション等を通して、生徒のおかれている現実や学習面の理解度等の把握に努める。 特に精神的及び学力的に不安のある生徒の平素の学習状況については、担任・各科目担当教員を中心に、全職員で支援できる体制を更に整備していく。
		学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に準拠しているか。また、その編成・実施の考え方について教職員間で共有ができていないか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程は学習指導要領に準拠している。 教育課程の編成、実施の考え方についての共有はできている。 	
	教職員連携	組織運営	校務分掌や各委員会、主任体制などが適切に機能するなど、学校運営・責任体制が整備されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き、組織運営や校務分掌、各主任及び主事体制が適切に運用され、新任教員へのサポートも適切に行われた。 コンプライアンス研修を毎月行うなどして、その充実にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌や各委員会、主任体制など、学校運営・責任体制の整備には、研修を継続し、不断に努力したい。
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築された教育活動が行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間の相互理解・信頼関係に基づいた教育活動が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員間、事務職員間の連携・情報共有のため、引き続き職員会議やスクーリング会議を更に質の高いものにしていく。
		教員と事務職員の連携状況	教員と事務職員の情報交換の機会があるか。また、それらの機会を通して、相互理解及び連携がとれているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な職員会議やミーティングを行っており、教員と事務部門での情報共有・意見交換の場面設定も行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 各主任、主事が適宜自発的に会議を招集していく体制づくりを行い、情報共有や意思統一を図っていく。
	学校設置会社及び財務関係	学校設置会社の役員及び株式の状況	学校を運営するにあたり適切なものとなっているか。また、その状況は学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き適切な運営、情報公開に努める。
		学校の経営に必要な財産等の状況	学校を運営するにあたり適切なものであるか。また、その状況は学校の経営に必要な財産等の状況が事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校設置会社の経営及び財産に関する状況が事業報告書に適切に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。 なお、より永続的、安定的な学校経営を行うため2020年度より運営会社の変更を実施した。 	
		高等学校等就学支援金	高等学校等就学支援金に係る事務について点検体制を確立し適正に執行しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 就学支援金については事務体制を維持し適正に執行されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、担当職員の業務内容習熟を図り、適時性・正確性を確保する。
	施設及び設備	面接指導等を実施する施設・設備	面接指導等を実施した施設・設備が教育上適切であるか。また、それが事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導等は特区域内の学校で適切に行われている。 各科目毎に可能な限り別教室(一部同教室別ブース)で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 面接指導等を、より適切な施設・設備で実施できるよう努める。
		連携施設	連携施設で学習面、生活面の支援が適切かつ十分に行われているか。また、それが事業報告書に記載されているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 連携施設では、面接指導等は行わず、本校教職員による学習支援、課外活動等が適切に行われている。学習支援、課外活動等の内容については一層の充実の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携施設における学習支援、課外活動等の内容の不断の充実を図る。
危機管理	役割分担	事故・災害などに対する教職員の連携及び役割分担が明確になっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 関係各所(警察・消防・学校医など)の連携はとれており、事件・事故・災害などの際の対応体制も整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識を高めるために半期に1度、全体会議を実施するとともに、町役場、警察、消防と一層の連携を図りたい。 	
	安全管理	安全な学習環境づくり(校舎内外の安全点検管理及び諸活動)を推進しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 本年度5月に耐震補強工事の進められている特区内施設(旧大町立黒沢小学校)に校舎を移転。 災害等に備え、教職員だけでなく生徒も参加した避難訓練を計画し実践していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を学校安全計画に位置づけ、生徒が体験的に理解できるよう計画的に実施し、万が一の災害等に備える。 	
	危機管理対応状況	危機管理マニュアルに基づき、町役場、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれているか。	B			
	個人情報管理	生徒情報管理が適切に行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーマークを取得している。(2017年) 個人情報管理に関する研修も定期的に行っており、生徒のプライバシーの確保を維持している。 コンプライアンス研修を毎月行うなどして、その充実にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修体制をさらに整え、生徒情報管理の徹底を図りたい。 	
教育内容・支援	スクーリング参加状況	年間計画に基づいた実施と参加の促進が行われているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づいた実施ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 適正規模での実施に向けて、参加の一層の促進・調整を図る。 	
		スクーリング内容(面接授業)	<ul style="list-style-type: none"> 適正な時間数・規模で行われているか。 各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開しているか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> スクーリングを一部8割減免時間数から、完全6割減免時間数での実施にすることにより、2泊3日から3泊4日となったが、それによって生徒の多様な履修に対応できるようになった。 上記により、時間的に余裕ができたことで、より柔軟な編成もできるようなるなど、教育内容の一層の充実を図ることができるようになった。 複数科目をまとめて面接指導することなく、科目ごとに面接指導をおこなっている。 スケジュール作成・授業編成時にミスがないよう管理システム上でのチェック体制は維持されている。 試験を、スクーリングの最後に設けず後日に実施するパターンを新たに作ることで、生徒は2回本校に来ることにはなるが、時間的余裕をもってそれぞれに臨むことができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 精神的及び学力的に不安のある生徒については特に、担任・各科目担当教員を中心に、全職員で連携し、よりきめ細やかに支援できる体制をさらに整備していく。 各授業については、学習指導案作成の徹底とともに授業参観・事後評価等を通じ、その更なる質の充実・向上を図りたい。
	レポート内容・添削	興味・関心・意欲が高まるよう教材の内容を工夫するとともに、複数メディア導入に伴う生徒の学習成果の確定的確認を行っているか。また、インターネットを活用した添削指導に遅延がないよう、計画的に業務を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> メディアを含む学習内容は、生徒の学習成果(興味・関心・意欲)が上がるよう、引き続き細やかな改善に努める必要がある。 添削指導に遅延がないよう計画的なメールアナウンスがなされている。 レポート添削については、択一問題で不正解になったレポートに対する個別解説や指導を充実させ、より生徒一人ひとりの習熟状況に応じたものにした。 添削指導については本校所属の教員が行うようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> メディア学習の内容を、生徒の実態を勘案しつつ、より適切なものへと不断に改善していく。また、全てのメディアについて、計画的かつ継続的な学習に十分な視聴時間を確保する。 生徒一人ひとりの学習状況に応じた解説や指導を目指していきたい。 	
		生徒一人ひとりの学習状況に応じた解説を加えた指導を行っているか。	A			
	試験	試験の実施	学習成果が適切に評価できる時期に試験を実施しているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 前年度同様、試験は年度の後半(例えば4月生の場合は11月以降)に実施するなど、ほぼ適正な時期に実施するようにしている。 スクーリングを早い時期に希望する生徒は、試験は年度後半実施であるために2回本校に来ることにはなるが、余裕をもって臨むことができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の就学状況・履修状況に応じて、試験がさらに適正な時期に無理なく実施できるよう編成するよう努める。
	情報発信	ネット回線の有効活用	本校独自でネット開設している連絡・学習サイト「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 左記「マイページ」により、学校イベントなどの情報提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の事務的な情報提供だけでなく、ブログ等のSNSを活用して、生徒の心の成長を助成したり、自己実現をサポートできるよう努めていきたい。
個人に対する効果的な情報提供		上記「マイページ」にて、生徒及び保護者が、学習進捗の確認や各分野毎(進路など)の情報が閲覧できるようになっているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な発信物「ルネ高通信」を自宅に発送し、生徒だけでなく、保護者にも情報提供を行っている。 		
情報教育	情報能力知識	各種活用能力の知識を向上させているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 情報の教科を中心に常に進化している「ネット社会の実態」について重点をおき、タブレット(IPAD等)を使用しながら取り組んでいる。また、インターネットにおける若年者のトラブル・危険性についても理解を深める授業を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報ツールを活用したコミュニケーション方法を通して、生徒がより活用能力を高めることができるよう努めていく。また、継続してインターネットによるトラブル等について理解を促すよう努めていく。 	
	情報モラル指導	情報発信・公開に伴う責任など情報モラルの教育に取り組んでいるか。	A			
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)が高められているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> スクーリング時の生徒指導については、教職員間で連携を取りながら対応できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関との連携を強化し、より質の高い生徒指導ができるよう努める。
		教員の共通認識と研修	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識のもと、運営されているか。また、生徒の実態に応じたテーマについて、計画的な教員研修を実施しているか。	A		<ul style="list-style-type: none"> SNS等の活用のほか、定期的な発信物「ルネ高通信」や、インターネット上の生徒への連絡・学習サイト「マイページ」を通じ、組織的な生徒指導の更なる充実を図る。
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活が送れるよう支援しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒在宅時については、生徒指導は保護者に任せられる部分が多いと言わざるを得ないが、家庭との連携については、担任が電話・メール・SNS等を活用し、連絡・意思の疎通に努めている。 	
	いじめ等の問題行動の未然防止	すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、基本方針に基づき、いじめ対策委員会が設置され、適切に運営されているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ対策委員会を適切に運営し、いじめ防止に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめに関する研修等の充実を図る。 	
進路指導	キャリア教育	生徒一人ひとりの状況に即し、主体的な進路選択に結びつく適切な指導をしているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 希望進路実現(進学・就職)に向け、計画的に生徒・保護者への情報提供を実施している。 受験対策指導(筆記・面接など)の更なる工夫を模索していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路について、担任全員が最新情報を共有し、進路指導主事を中心に、よりきめ細やかで適切な進路指導を行える体制を整える。 	
	健康の保持増進	生徒が心と体の健康を自ら管理できる知識と実践力を育成しているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> スクーリングの特別活動(健康)にて、生徒の健康管理、生活習慣、健康増進に向けた取組みを実施している。 生徒の在宅時の健康保持増進については、工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅時の健康保持増進を生徒に平素から呼びかけるほか、生徒本人・保護者から生活状況・健康状態を報告する仕組みを作りたい。 	
その他	学校関係者評価	「大子町通信制単位制高等学校協議会」ほか学校関係者による評価・それぞれの立場・視点から意見を出し合うことを通じ、開かれた学校づくりが進められているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 評価活動を通じたコミュニケーションにより、保護者や地域住民などと学校が、お互いに理解を深めるように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> より充実した関係者評価を実施し、その公表に努める。もって教育の質の向上、学校運営の改善に努める。 	
	教職員研修	教職員が計画的に校内研修に参加できる習慣や体制が整備されているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のコンプライアンス研修のほか、茨城県通信制高等学校等連絡協議会主催の研修会への参加に努めた。 姉妹校合同による初任者研修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の実施回数に更に増やし、教職員のスキルアップを図る。 	
	他校及び関係機関との連携	姉妹校(豊田校・大阪校)や県私学通信制単位制高等学校等連絡協議会加盟校と、通信制高校の在り方などについて情報交換を行い、学校全体の教育力を高めることに努めているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月行われる設置会社主催の本部会議において、姉妹校との情報交換等を行った。 茨城県通信制高等学校等連絡協議会に欠かさず参加し、情報交換等を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹校があることのメリットを最大限に活かす、連絡を密にとり、運営方法全般に関する事例等を共有できる仕組みづくりをさらに整えていくなどして、教育力の向上を図りたい。 	

校長 教頭 事務長